

# GINGA REPORT 401

No. 83  
2022.04

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和4年4月1日  
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム  
電話：059-355-2700

## 4月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

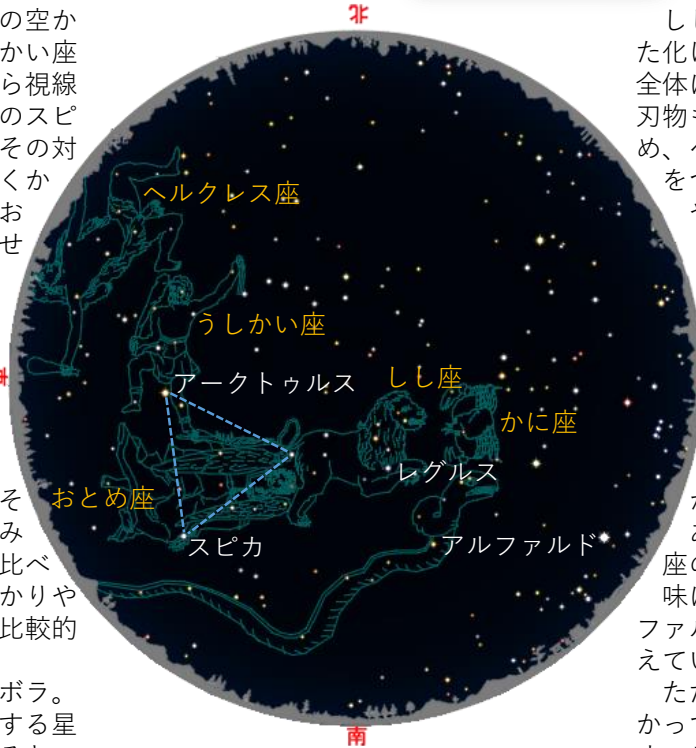
### 春の「めおとぼし」

春の空で最も目立つのは、東の空から昇ってきた黄金色の星、うしかい座のアークトゥルスです。そこから視線を下げると、真っ白なおとめ座のスピカが見つかります。この二つはその対照的な様子からか、日本では古くから、それぞれ「おとこぼし」「おなごぼし」と呼ばれ、二つ合わせて「めおとぼし」とされています。空の夫婦というと、夏の織姫と彦星が有名ですが、春の夫婦も負けず劣らず輝いています。

### 春の大三角

めおとぼしが見つかったら、その二つを含む正三角形を探してみましょう。残りはめおとぼしに比べて少し暗く2等の星ですが、わかりやすい正三角形をしているので、比較的簡単に見つけられるはずですよ。

最後の一つは、しし座のデネボラ。しし座のおしりのあたりに位置する星です。こうして星座絵を見てみると、おとめ座の女神におしりを向ける、少し失礼なライオンに見えてきませんか。



4月15日21時の星図

### 怪物たちのいるところ

しし座は、英雄ヘルクレスが退治した化けジシだと言われています。身体全体にかたいうろこをつけて、どんな刃物もはじく不死身の怪物であったため、ヘルクレスは素手でライオンの首をつかみ、三日三晩締めつけて、やっと退治できたそうです。

そんなヘルクレスに退治された怪物は、他にもいます。しし座の視線の先に見えるかに座、南の空を大きく横断するうみへび座も、同じくヘルクレスに倒された怪物たちです。特に、うみへび座は星座の中で最も大きく、その全身を一度に見るのが困難なほど。手ごわい怪物であったことが想像できます。しし座の心臓レグルスの下で、より不気味に赤く輝くうみへび座の心臓アルファルドも、さらにその恐ろしさを伝えているようです。

ただ、そんな三匹はみな西の空に向かって急いで逃げているように見えます。それは、夏の星座としてもうすぐ顔を出す、ヘルクレス座を恐れているからかもしれません。

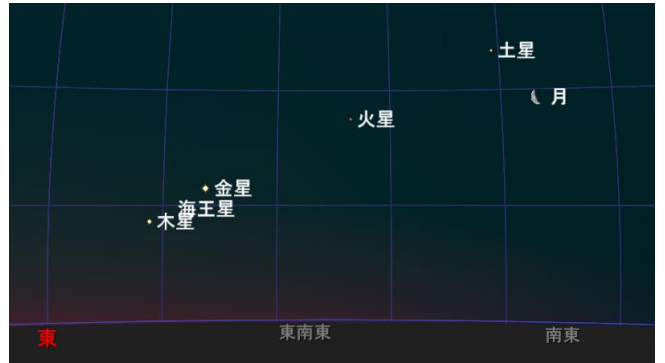
## 今月の天文トピック

右図：ステラナビゲータ9で作成  
4月25日4時20分ごろの空

### 「春眠暁を覚えず」な春、それでも見たい明け方の惑星たち

「春眠暁を覚えず」という言葉があります。これは、中国は唐の時代の詩人、孟浩然（もうこうねん）の「春暁（しゅんぎょう）」という詩の一句です。春の眠りの心地よさをいう言葉で、明け方空が明るくなってきても、いつまでも寝ていたい、そんな気持ちを表しています。

ただそんな春でも、今年は早起きをして惑星たちを見てみましょう。特に4月下旬には、夜明け前の東の空で惑星が大集合しています。東の空から順に木星、金星、火星、土星。肉眼で見えることは出来ませんが、木星と金星の間には海王星も隠れています。さらには、細い月がそれぞれの惑星たちの隣を移動しながら、輝く様子も見られます。この惑星たちの集合は5月末まで楽しむことができます。少しだけ早起きをして、薄明の空に浮かぶ惑星たちを眺めてみませんか。



## 博物館主催 スターウォッチング

### 博物館主催きらら号観望会

日時：4月23日（土）19:30～21:00  
場所：博物館前市民公園  
内容：春の星をさがそう







※当日受付・参加無料です。  
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)  
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。

## 編集後記

明け方の空を見てみましょう、と書いてみるも、春の早起きは本当に辛いと思っている筆者です。なんといっても日の出は5時過ぎ、薄明の空を眺めたいなら、4時台に起きなくてははいけません。

明け方の空を眺めた最後の記憶は、一晩中観測をしていた流星群の日、という私。早起きをするのがかなわないのなら朝まで起きる、そんな覚悟が必要かもしれません。

## 4月の月

- 1日  新月
- 9日  上弦
- 17日  満月
- 23日  下弦